

2022年5月2日

都道府県ライフセービング協会

JLA 加盟クラブ

各位

日本ライフセービング協会教育本部

2022年度 ジュニアライフセービング教室助成事業のご案内
～子ども達への水辺の安全教育プログラムの推進事業～

はじめに

コロナウイルス感染拡大の影響により、多くの学校で水泳の授業が実施できない状況が続いています。そして海水浴場が開設されないことにより、ライフセーバーのいない海岸や、河川、池など自然水域に行く機会が増え、それに関連する事故が残念ながら増加傾向にあります。このような中、各地域のライフセービングクラブを拠点とした教育活動に、「何かできるだろうか」と感じていらっしゃる指導者の方も多いのではないのでしょうか。

子ども達が安全に水辺を楽しみ、体験を通じて多くの笑顔や感動、学びを後世に繋げていくために本事業を進めて参りたいと思います。

【概要】

「e-Lifesaving、JLA ジュニアライフセービングバッジテストを活用した、ジュニアライフセービング教室の全国実施（5カ所）」

ライフセーバーや指導者が、ライフセービング教育の重要性を理解しながらも、全ての子ども達がライフセービングプログラムにアクセスできる状況は遠い。このような状況を打破するために、教育本部では「全てのライフセービングクラブでジュニアライフセービングプログラムを！」という目標をたてた。これまでジュニアライフセービング教室を実施する計画を持ちながら、器材やノウハウなどの問題で実施に至らなかったクラブに対して下記の企画を公募する。審査方法は、原則として評価点が高い団体から順に5団体を助成対象に決定し企画の支援を行う。本助成事業を通して、①各団体の実践を通じて、ジュニア教室の体系的な実施と運営について共有を図る。②教育本部委員を派遣し、計画や実施の支援を行いながら、実施状況を記録する。③指導者、参加者アンケートを実施し、効果測定と課題抽出を行う。という3点を踏まえ、ジュニアライフセービング教育の質の向上を目指す。

【本事業実施目標】

- ① 「ジュニアライフセービング教室」を全国10ヶ所(既存重点地域5カ所、拡充重点地域5カ所)にて、参加者計300人を目標に実施。
- ② 事業成果物：地域クラブ等によるe-Lifesaving導入プログラムの実地調査報告書。

【企画内容】

- ① 子どもの理解度や発育発達段階に合わせた取り組みを体系化し、活動をより継続的なものにするため、JLA ジュニアライフセービングバッジテストを活用したプログラムの運営を企画する。
- ② 海浜活動中の地震、津波、避難のフローを各地の防災マップに基づき、シミュレーション訓練を実施する。ライフジャケットを着用しての避難の重要性や避難経路、避難場所までの道のりを体験から学ぶことで、防災意識を高める。また津波フラッグへの周知を図ることで、海浜活動への安全知識と実践的行動を理解する。
- ③ e-Lifesaving を事前学習、もしくは事後学習にて使用し、プログラム全体の学びの質の向上や、安全にプログラムを実施するために活用する。

【選定方法】

企画提案書に基づき、JLA に設置された審査委員会において書類選考を実施する。

- ① 評価は、申請書の内容を加味しながら、企画提案項目ごとにそれぞれ「絶対評価」にて行うものとし5段階にて評価を行う。評価者が各々評価した採点結果の合計を平均したものを評価点とする。
- ② 評価基準
大変優れている=5/優れている=4/普通=3/やや劣っている=2/劣っている=1点

【実施対象期間】

本通知後から、2022年8月31日水曜日までに実施するプログラムを対象とする。

【支援対象クラブ条件】

- 1) 申請時に、2022年度都道府県ライフセービング協会、もしくはJLA加盟クラブであること。
- 2) 「2022年度ジュニアライフセービング教室助成事業申請書」・「2022年度ジュニアライフセービング教室助成事業企画提案書」・「事業完了報告書」などの提出物を期限内に提出できること。
- 3) 助成を受ける団体は、ジュニアインストラクター、ジュニアアシスタントインストラクター、リーダーのいずれかの資格を取得している指導員が指導する体制を作ることが望ましい。該当者がいない場合はそれに準ずる技能・経験があり、助成を受ける団体の代表者の承認を得た者とする。
- 4) ジュニアライフセービングプログラムの実施に興味のある方を、運営・指導スタッフとして受け入れる体制がとれること。
- 5) 教育本部委員による実地調査の受け入れ、e-Lifesavingに関するアンケート調査（参加者）への回答の提出ができること。

【助成対象範囲】（1クラブあたり開催助成金 合計上限 30,000 円）

- ① 旅費交通費（指導員、スタッフの交通費）、人件費（指導員、スタッフ）、保険料、通信運搬費、賃借料、雑費
- ② 物件費：助成対象外。ただし、下記ア～クの物件を助成事業として提供いたします。
 - （ア） ニッパーボード 5 本
 - （イ） ライフジャケット：15 着
 - （ウ） ジュニア用ラッシュガード：30 枚
 - （エ） ジュニア用キャップ：30 枚
 - （オ） ジュニアテキスト：希望数
 - （カ） ビーチかるた：1 セット（A4）
 - （キ） 水辺の安全啓発用クリアファイル：希望数
 - （ク） 掲出用ポップアップバナー：1 セット

※助成金対象に関わる支出については、全てに領収書の提出が義務付けられます。

領収書宛名：日本ライフセービング協会

※申請書の開催期間に記した実施日において、他の団体による助成を受けていないこと。

※「ジュニアテキスト」と「水辺の安全啓発用クリアファイル」はプログラム実施前に必要数をご連絡いただきます。

【申請方法】

「2022 年度ジュニアライフセービング教室助成事業申請書」「2022 年度ジュニア・ライフセービング教室助成事業企画提案書」を申請締切日までに JLA 事務局までご提出ください。データでのご提出にご協力ください。申請が受理された団体に対し、その後の手続きについてご連絡いたします。

●提出先 E-mail：academy@jla.gr.jp

メールの件名：日本ライフセービング協会「日本財団ジュニア助成」係

【申請締切】

2022 年 5 月 31 日（火） 24 時受信分まで

【事業完了報告書の提出】

助成対象のクラブの申請担当者の方に、後日報告書書式をメールで送らせていただきます（またはホームページに掲載）。報告書はデータ提出いただきますようご協力ください。事業報告内容は以下の通り。

1. 日時
2. 場所
3. 参加人数（年齢・職業等）
4. 指導員およびスタッフ名
5. 内容
6. 記録写真データ（メール添付、または CD-ROM にて）
（ア）プログラムの様子、集合写真、助成物件使用中の写真等
※写真は HP や SNS 等で一般公開可能なデータのみご提出ください。
（イ）その他の広報関連（新聞掲載のコピーなど）や関係書類
7. 事業総括
8. クラブで実施したアンケートや感想のコピー等
9. e-Lifesaving、JLA ジュニアバッジテストについてのフィードバック
10. 収支決算書（領収書必須）

【事業完了報告書の締切】

事業終了後、1ヶ月以内を目途に JLA 事務局までに完了報告書をご提出下さい。
最終締め切りは 2022 年 9 月 30 日金曜日午前 9 時までとします。

【その他】

申請等に関わる個人情報は、本事業における連絡業務に使用し、その他の目的では一切使用しません。

【お問い合わせ】

日本ライフセービング協会 事務局
〒105-0013 東京都港区浜松町 2-1-18 トップスビル 1 階
TEL：03-3459-1445 E-mail：academy@jla.gr.jp

別紙 1：2022 年度ジュニアライフセービング教室助成事業申請書

別紙 2：2022 年度ジュニアライフセービング教室助成事業企画提案書（企画提案書、ジュニアライフセービング教育指導案（当日に実施する内容））



津波避難タワーを活用した防災教育例

写真左：ライフセーバーによる津波避難タワーを活用した津波フラッグ掲出のデモンストレーション。
 写真右：津波避難タワー上で防災教育を実施。子どもたちはライフジャケットを着用した状態で砂浜から津波避難タワーまでの避難訓練を体験。



ジュニア用ラッシュガードのデザイン
 ※上記デザインは、変更になる可能性があります。



掲出用ポップアップバナー
 ※屋外屋内問わず、簡単に掲出が可能です。



ジュニア用ライフジャケット
 TYPE A/桜マーク付き
 ※デザインは、変更になる可能性があります。



ジュニアライフセービングかるたを、砂浜で遊ぶ『ビーチかるた』（ビーチフラッグス方式）様に加工します。海が苦手な子でも砂浜で楽しめる種目として、ライフセービングのイベントや、プログラムの確立（名物化）を目指します。ビーチかるたの基本ルールや、安全上の留意点も配布します。

Keep Watch 子どもから目を離さない

家庭用プールでも「溺れる」リスクがあります。水辺の事故を防ぐため、必ず大人が目を見守り、手の届く範囲で見守りましょう。



子どもだけで遊ばせておくことはもつとも危険です。忙しくても、子どもから目を離さないようにしましょう。



溺れる時は、静かに溺れることが多いと言われています。動かない子どもや、不自然な動きに注意しましょう。

イラスト：消費者安全課消費者安全委員会イラスト集より

入水している子どもがいる時に、目を離した他の作業、携帯電話操作をすることなどにより、子どもの異変を見逃すことがあってはいけません。

e-Lifesaving 水辺で自分の身を守る方法を学ぶ専門サイト<無料>



水辺の事故ゼロをめざすために、ご寄付をお願いいたします。
（例）「救命 救命は誰からの助け」として、例：救命 救命は誰からの助けです。



公益財団法人 日本ライフセービング協会

Water Safety

海やプールでおぼれない！ 水辺の安全 10ヶ条

水辺に向かう前に

- 気象や遊泳情報を知る**
 必ずその日の気象状況と、高や波の規模や、泳いで良い場所なのか調べましょう。
- 危険な場所を知る**
 入水前に、道の障害をおこない、家族や仲間と安全に渡す。約束事を決めましょう。
- 自分で自分を守る**
 深く着けライフジャケット、機能的な泳ぎ手当てができる準備をしましょう。
- 足の届くところで遊ぶ**
 波の高さや水深、沖への流れなどを確認しながら入水し、足のつく範囲で遊びましょう。
- 休憩をしっかり取る**
 長時間の歩行や泳ぎがある場合は、休憩場所の入水は控え、休憩をとってから遊びましょう。
- 飲んだら泳がない**
 アルコール飲料を数人からの入水は絶対にやめましょう。
- 避離経路を確認する**
 地質や深さに着いて、避離経路や津波避難タワーなどを確認しましょう。
- 風や離岸流に流されない**
 潮の満ち退きの変化を気にかけましょう。もしアフロートが流されても、泳いけなさい。
- 熱中症対策をする**
 体調管理と水分補給を心がけ、すぐに日陰で休める場所を確保しましょう。
- Keep Watch目を離さない**
 一人一人がライフセーバーです。「Keep Watch」子どもから目を離さないでください。

水辺の安全啓発用の A4 サイズのクリアファイルです。水辺の安全 10ヶ条を JLA オリジナルのアイコンで分かりやすくまとめています。

JAPAN LIFESAVING ASSOCIATION